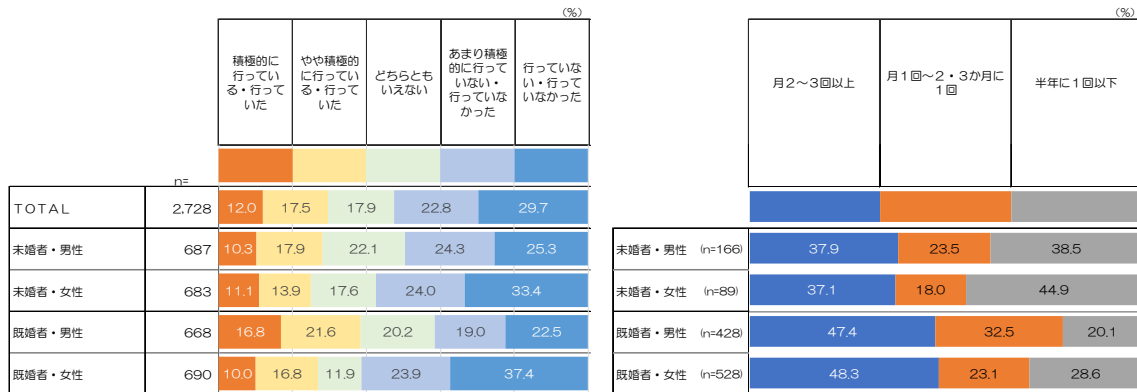


これまでは未婚者の意識についてみてきましたが、ここからは、未婚者の婚活などの結婚行動について見ていきたいと思えます。

<行動>

(16) 未婚者・既婚者の活動の積極性のギャップ

既婚者は未婚者より総じて、独身時代の婚活・恋人探し活動が積極的。



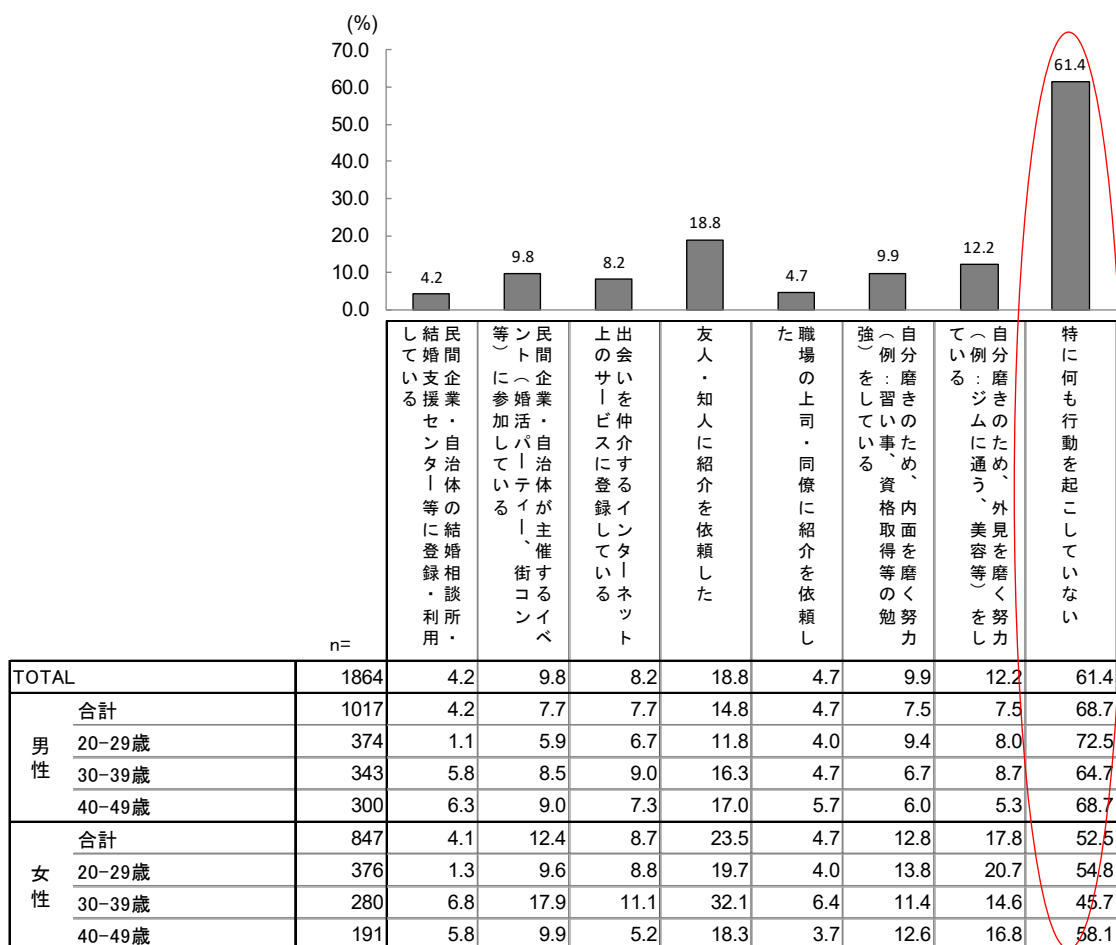
左図：内閣府子ども・子育て本部『令和3年度結婚支援ボランティア等育成モデルプログラム開発調査報告書』「婚活・恋人探しの実施状況」より抜粋
 右図：ニッセイ基礎研究所（2020）『日本の未婚化の要因に関する仮説検証調査』「Q8活動頻度 未婚者/既婚者（20～40代）」

研修時のポイント等

- 【重点説明ポイント】
- ・第2章（5）で日本人は恋愛・結婚に受け身になりがちであることを説明したが、そのような状況で、実際に結婚できている人（既婚者）には積極的な姿勢がある。
- 【講義展開例】
- ・積極的になれない利用者に対してどのようにサポートすればよいか、受講者同士で話し合ってもらおう。

(17) 未婚者の約6割が婚活・結婚行動していない現実

20歳から49歳の未婚男女で結婚しない理由を「適当な相手にめぐりあわない」と回答した者のうち、約6割が相手を探すために、「特に何も行動を起こしていない」と回答。



内閣府子ども・子育て本部『平成30年度少子化社会対策に関する意識調査』
「問26 具体的な相手を探すため、何か行動を起こしましたか。」（複数回答）

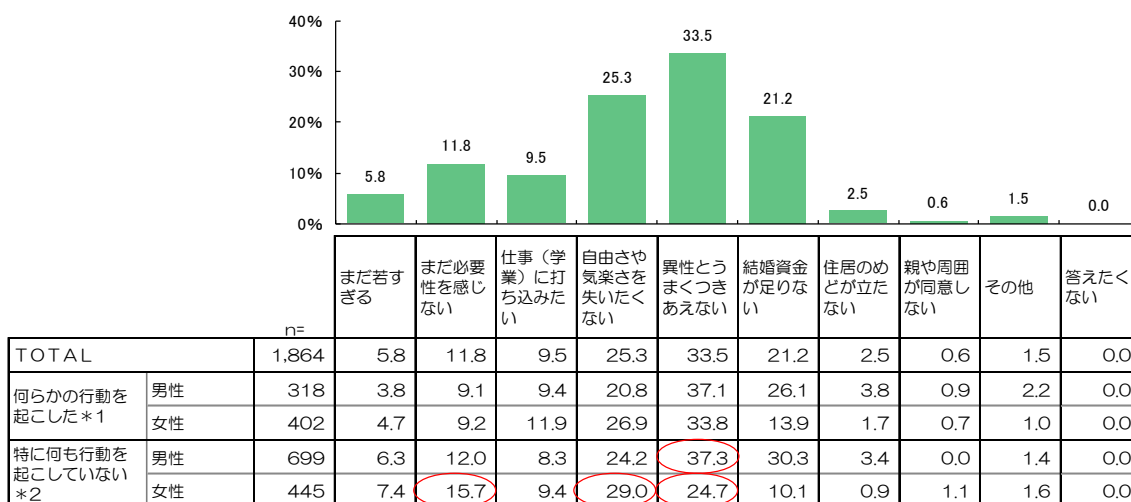
研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・日本人は受け身な意識が強いこともあってか、実際の行動を起こしていない現実がある。
- ・第2章（5）で日本人は恋愛・結婚に受け身になりがちであることを説明したが、実際の行動でも、「相手と出会えない」と回答しつつ、半数以上の人々が「行動を起こしていない」傾向がみられる。

(18) 異性との交際に自信がなく行動しない男性に対し、自分なりの考えがあって行動しない女性

行動を起こしていない男性では、「異性とうまくつきあえない」、行動を起こしていない女性では、他に「自由さや気楽さを失いたくない」「まだ必要性を感じない」との回答が多い。



*1.何らかの行動を起こしたかを問う設問において、「特に何も行動を起こしていない」以外を選択した男女

*2.何らかの行動を起こしたかを問う設問において、「特に何も行動を起こしていない」を選択した男女

内閣府子ども・子育て本部『平成30年度少子化社会対策に関する意識調査』
 “適切な相手にめぐりあわない”と回答した者のうち、「具体的な相手を探すための行動の有無別・性別で見た結婚していない理由」(複数回答)

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・男性には交際に対する苦手意識がみられるため、そうした苦手意識を取り除くサポート。女性は自由さや気楽さを挙げているため、パートナーがいること、家庭があることの良い点を意識づけるサポートが望まれる。

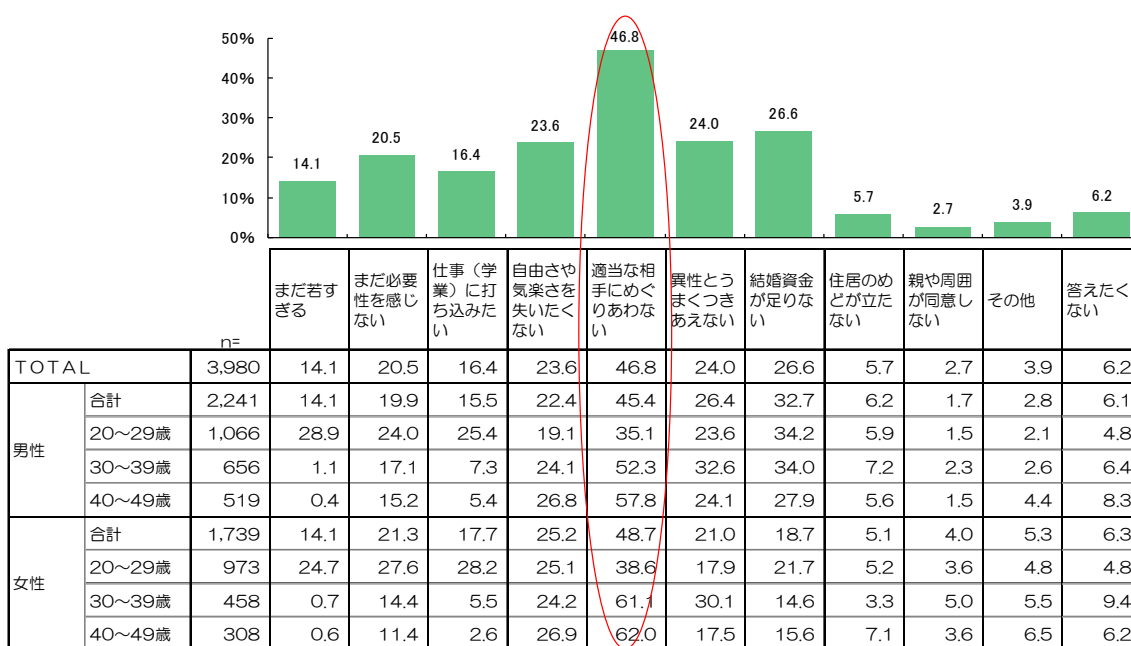
【講義展開例】

- ・男女とも「異性とうまく付き合えない」が高いのはなぜか、受講者同士で話し合ってもらおう。

最後に、未婚者の方が考える自分が結婚に至らない理由を見ていくとともに、結婚支援サービスへのニーズと求める支援内容について考えていきたいと思えます。

(19) 年齢が上がるにつれ見つかりにくい「理想の相手」

結婚に至らない理由について、年齢が上がるにつれ「適当な相手にめぐりあわない」の回答割合が大きくなる。



内閣府子ども・子育て本部『平成30年度少子化社会対策に関する意識調査』
「結婚していない理由」(複数回答)

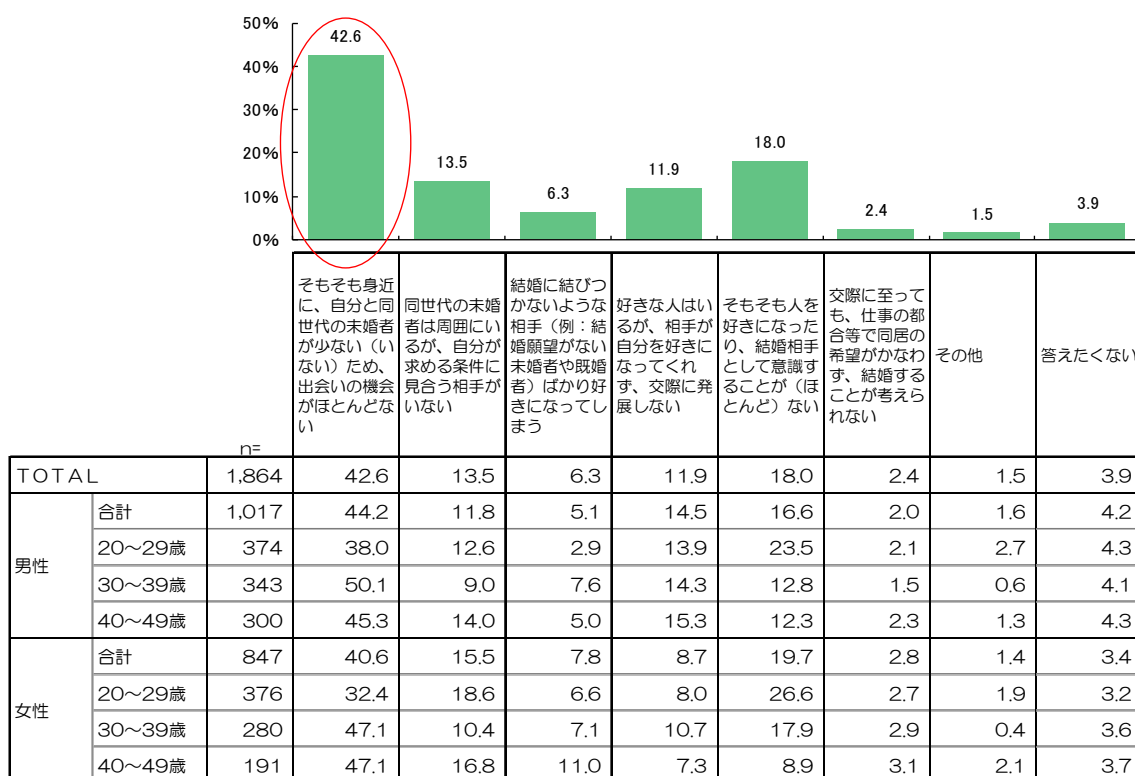
研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・結婚のタイミングを決めるのは個人の自由であるが、データ上では、年齢の上昇に従い、「適当な相手にめぐりあわない」割合が大きくなっている。
- ・男女ともに30歳以上になると、「適当な相手にめぐりあわない」の回答割合が特に大きくなる。このことは20歳代後半が一つのターニングポイントになっていることを示唆している。
- ・年齢のミスマッチに加えて、年齢を重ねることで、仕事上の責任感が重くなる。あるいは親の介護・見守りが必要となるなど、様々な事情を抱えることになる。そんな事情や自分の都合にすべてあわせてくれる「都合のよい相手」を求めようとすることも、「適当な相手にめぐりあわない」と回答する割合が高くなる一因である。
- ・なお、一方で年齢の高い方の婚活をマイナスに捉えることも控える必要がある。
- ・50歳以下の団塊ジュニア以降（特に女性）では、少子化社会において老後の生活保障が非常に厳しくなっており、国からの支援だけではなく老後の自活も求められること、親世代の水準の老後の生活保障は望めない可能性がある。
- ・こうした状況を踏まえ、老後の生活保障のことも含めたライフプランニングの一環として、婚活・結婚を考えることも重要。

(20) 適当な相手とめぐりあわない理由

- ① 男女とも「そもそも身近に、自分と同世代の未婚者が少ない（いない）ため、出会いの機会がほとんどない」が最も高くなっている。



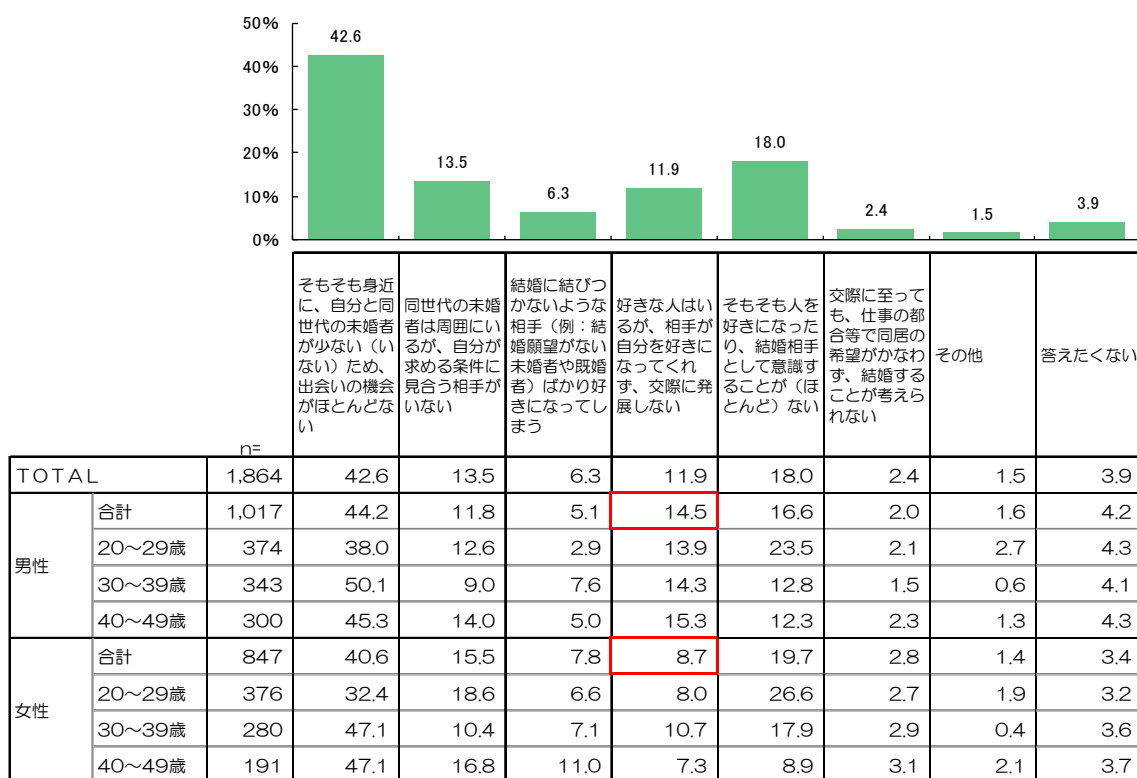
内閣府子ども・子育て本部『平成30年度少子化社会対策に関する意識調査』
「適当な相手とめぐりあわない理由」

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・データ上では、「30～39歳」、「40～49歳」の男女ともに半数程度の方が、身近に同世代の結婚していない人が少なく、出会いの機会がほとんどないという状況になっている。

② 男性では「好きな人はいるが、相手が自分を好きになってくれず、交際に発展しない」が、14.5%と女性と比べて高くなっている。

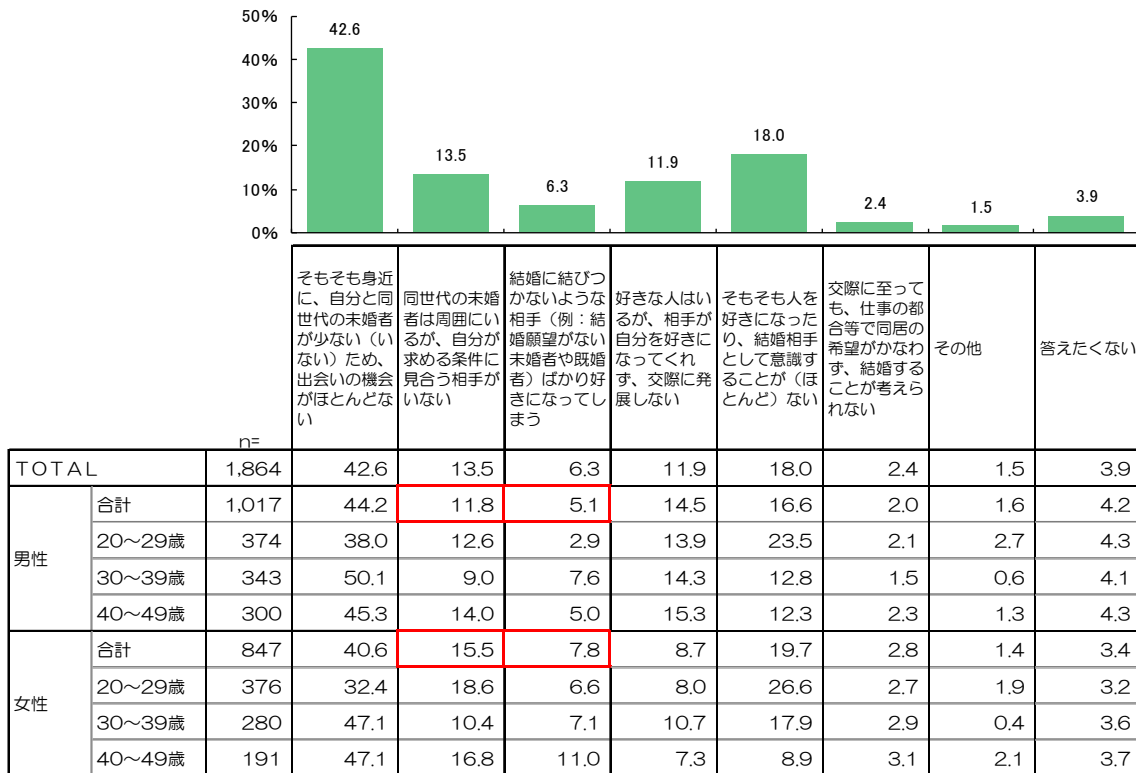


内閣府子ども・子育て本部『平成30年度少子化社会対策に関する意識調査』
「適当な相手とめぐりあわない理由」

研修時のポイント等

- 【重点説明ポイント】
- ・男性は、「相手が自分を好きになってくれない」という答えが女性と比べて多い。男性は年齢が上がるにつれ、より年下の女性を好む傾向があり、好意を持った年下女性に相手にされない場合、こういった事例が起りやすくなる。
 - ・特に、男性に対しては、女性側に受け入れてもらえる範囲の年齢差について、しっかり説明する。
 - ・また、男性の利用者には「コミュニケーション不得手」で寡黙な方や、逆に「自分のことを理解してほしい」と多弁になる方も多く見られる。それは女性から見ると「私に関心がないのかな」と映り、結果的に、「相手が自分を好きになってくれない」ということになってしまいがちである。
 - ・交際に発展しない要因を本人と共に考えることで、気づきや新たな行動、新たな結婚意識を培うフォローを考えてほしい。

③ 女性は「同世代の未婚者は周囲にいるが、自分が求める条件に見合う相手がない」が15.5%、「結婚に結びつかないような相手（例：結婚願望のない未婚者や既婚者）ばかり好きになってしまう」が7.8%と男性と比べて高くなっている。



内閣府子ども・子育て本部『平成30年度少子化社会対策に関する意識調査』
「適当な相手とめぐりあわない理由」

研修時のポイント等

- 【重点説明ポイント】
- ・女性は、「条件に合う人がいない」「結婚願望のない未婚者、既婚者ばかり好きになってしまう」と答える方が男性と比べて多い。
 - ・男女間で、ミスマッチが生じている。
 - ・女性には、このセンターには結婚願望のある男性しか登録されていないし、条件を指定することができるので、安心して探してもらえることを伝えるのも良い。
 - ・男性は、相手が自分を好きになってくれないことを気にしているが、逆に言えば、女性側が男性を好きになれば、男性はその女性を好きになる可能性が高い。

(21) 政令都市在住以外の男性の結婚難要因となっている「不安定雇用」

都市規模別に結婚に至らない理由をみると、政令都市と比べて、中核都市・地方部在住の男性で「雇用が安定しないから」の回答割合が大きい。

(複数回答) (%)

		n=	自分に合った相手となかなか出会えない	異性とのコミュニケーションに対する苦手意識がある	自由さや気楽さを失いたくないから	仕事や趣味・プライベートに打ち込みたい・集中したい	結婚後の生活費不足から不安だから	雇用が安定しないから	出会いはあるが、恋人以上に発展しない	理想が高い	親や周囲が同意しないから	子どもが嫌いだから	長男長女で避けられることが多いから	その他
未婚者 TOTAL	合計	1370	40.5	24.0	23.7	23.6	22.0	16.7	15.5	13.6	4.0	4.0	3.1	6.4
	政令都市在住	461	39.0	24.1	23.0	23.6	19.3	12.4	14.5	16.7	2.4	3.9	2.6	6.9
	中核都市在住	454	40.3	25.3	25.6	24.4	22.7	18.3	16.7	11.2	4.8	5.1	2.4	6.8
	地方部在住	455	42.2	22.6	22.6	22.9	24.2	19.6	15.4	13.0	4.8	3.1	4.2	5.5
未婚者・ 男性	合計	687	38.7	27.9	22.0	26.2	26.5	19.7	17.8	9.9	3.8	3.1	3.8	4.1
	政令都市在住	229	34.1	27.5	24.0	27.5	25.8	14.4	17.0	10.5	2.2	3.1	4.4	5.2
	中核都市在住	229	39.3	31.9	22.3	26.6	24.5	20.1	19.7	9.6	4.8	3.1	3.1	3.9
	地方部在住	229	42.8	24.5	19.7	24.5	29.3	24.5	16.6	9.6	4.4	3.1	3.9	3.1
未婚者・ 女性	合計	683	42.3	20.1	25.5	21.1	17.6	13.8	13.3	17.4	4.2	5.0	2.3	8.8
	政令都市在住	232	44.0	20.7	22.0	19.8	12.9	10.3	12.1	22.8	2.6	4.7	0.9	8.6
	中核都市在住	225	41.3	18.7	28.9	22.2	20.9	16.4	13.8	12.9	4.9	7.1	1.8	9.8
	地方部在住	226	41.6	20.8	25.7	21.2	19.0	14.6	14.2	16.4	5.3	3.1	4.4	8.0

内閣府子ども・子育て本部『令和3年度結婚支援ボランティア等育成モデルプログラム開発調査報告書』「あなたが結婚に至らない理由」

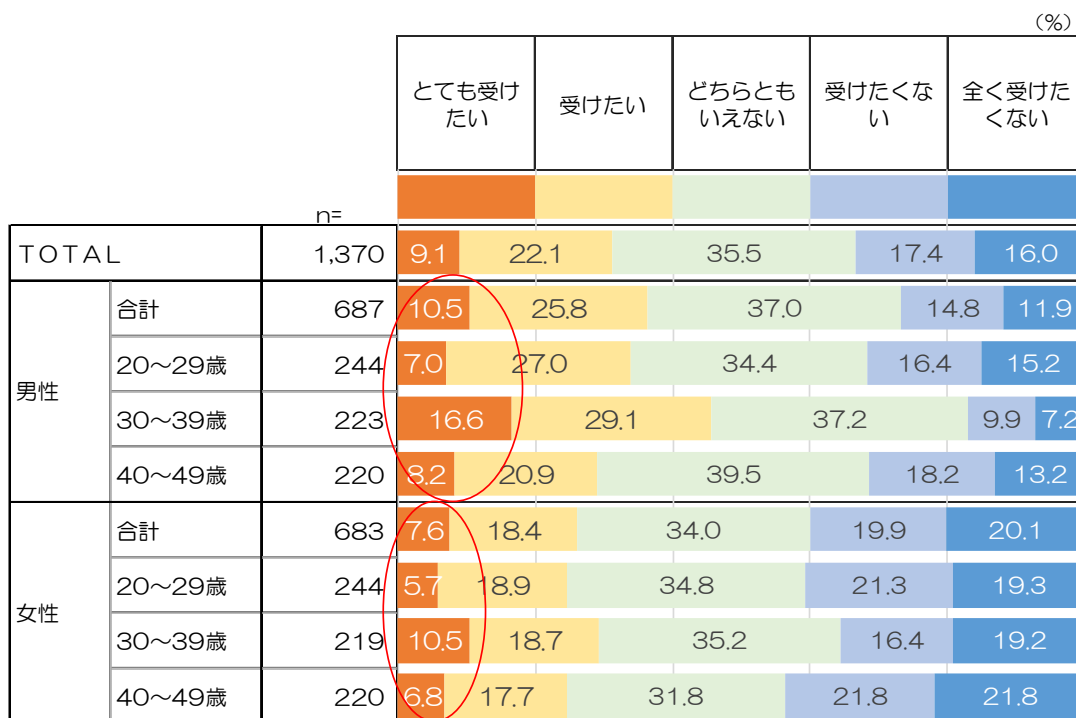
研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・収入等については、未婚者の方が高く見積もって不安になっているが、既婚者は、それよりは少ない収入でもなんとかなっていると感じている。雇用の面を不安視する方には、そういったデータを示しながら、後押しすることも考えられる。
- ・住んでいる市町村規模が小さくなればなるほど、「不安定雇用」の回答割合が高くなっており、地方部在住男性については、「雇用の安定性」が結婚の壁になりやすい傾向がみられる。
- ・なお、特に地方部では親と同居割合が高いこともあり、何とか生活していけることから非正規雇用のまま年齢を重ねるケースもある。
- ・一方、今の若い女性は、自分も働きながら、夫婦で支え合える関係を希望する人も多い。非正規雇用でもいいやという認識のままの男性については、正規雇用に向けて努力することが婚活の成功にもつながりやすい旨を（様子を見つつ）伝えるのも一つの方法である。

(22) 二極化傾向にある婚活、結婚に関するアドバイスへのニーズ

婚活、結婚に関するアドバイスを第三者から受けたいと思うかというニーズについて、「受けたい」は年代差が小さいが、「とても受けたい」は年代差が大きく、二極化傾向。



内閣府子ども・子育て本部『令和3年度結婚支援ボランティア等育成モデルプログラム開発調査報告書』「婚活、結婚に関するアドバイスを第三者から受けたいか」

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・婚活・結婚のアドバイスを受けたいのは、男女とも30代が他の世代より多い。この年代になると、男女ともに本格的に結婚意識をし始めるものの、結婚に至らず、結婚支援のニーズが高まっていると推測できる。
- ・なお、このような結婚支援ニーズの高まりは、30代になってから婚活を行っているために課題を抱えがちになっていることが背景にあるとも考えられる。可能なら20代の時から結婚に対する意識を高めてもらい、早くから婚活をスタートしてもらう方が、男女ともに結婚しやすくなる。

【講義展開例】

- ・婚活・結婚のアドバイスを受けたい30代に対して、男女別の対策を話しあってもらう。

<未婚者が求める支援>

(23) 婚活、結婚に関して受けたいと思う支援の男女ギャップ

「良い人の紹介」以外では、女性と比べて男性では「デートスポット」「ファッション」などの要望が強い。一方、女性では、「結婚の決め手や壁を乗り越えるための考え方」の要望が強い。

(複数回答) (%)

		n=	良い人の紹介	結婚の決め手や壁を乗り越えるための考え方	交際術やコミュニケーションのとりかた	デートスポットのアドバイス	ファッションなどのアドバイス	その他
未婚者 TOTAL	合計	427	76.3	46.8	46.4	28.6	28.1	0.7
	政令都市在住	147	74.8	49.0	50.3	25.9	27.9	0.7
	中核都市在住	135	79.3	48.9	47.4	34.1	30.4	1.5
	地方部在住	145	75.2	42.8	41.4	26.2	26.2	0.0
未婚者・ 男性	合計	249	75.9	41.4	51.4	40.2	36.1	0.0
	政令都市在住	90	74.4	42.2	53.3	35.6	34.4	0.0
	中核都市在住	79	78.5	45.6	51.9	46.8	36.7	0.0
	地方部在住	80	75.0	36.3	48.8	38.8	37.5	0.0
未婚者・ 女性	合計	178	77.0	54.5	39.3	12.4	16.9	1.7
	政令都市在住	57	75.4	59.6	45.6	10.5	17.5	1.8
	中核都市在住	56	80.4	53.6	41.1	16.1	21.4	3.6
	地方部在住	65	75.4	50.8	32.3	10.8	12.3	0.0

内閣府子ども・子育て本部『令和3年度結婚支援ボランティア等育成モデルプログラム開発調査報告書』「婚活、結婚に関して受けたいと思う支援の内容」

研修時のポイント等

【重点説明ポイント】

- ・利用者が求めているアドバイスとしては、男性は具体的「HOW TO (ハウツー)」を求める傾向が強い。女性は婚活に向かうにあたり、自分の人生をどうするか、どう整理するのかを整理するための「考え方」を求める傾向が強い。結婚後の暮らしや二人の関係に関するイメージに男女差がある点を認識した上で、結婚後のカップルの生き方のケースを把握した支援を想定したアドバイスができるとうい。

【講義展開例】

- ・結婚の決め手や壁の乗り越え方について、先輩のボランティアさんなどから経験談を聞く機会を多く作る。ただし、結婚観などは世代によって様々な考え方があるので、話し手となるボランティアさんについては受講者と近い年齢の方を選ぶなど世代の違いに配慮する。